

愛西市立小中学校適正規模 等並びに老朽化対策

八開地区説明会

H29.9

立田・八開地区で小中一貫校1校とする方向性

児童生徒数の急速な減少 新しい授業手法 老朽化

R4.6

基本方針の改訂

R4.10

基本計画（協議会案）

- ・ 佐屋中と立田中を統合し、現在の佐屋中の場所に配置
- ・ 八開中と佐織西中を統合し、現在の佐織西中の場所に配置

R4.10~R5.2

地区検討協議会

R5.2

保護者説明会

R5.3

基本計画素案

R5.3

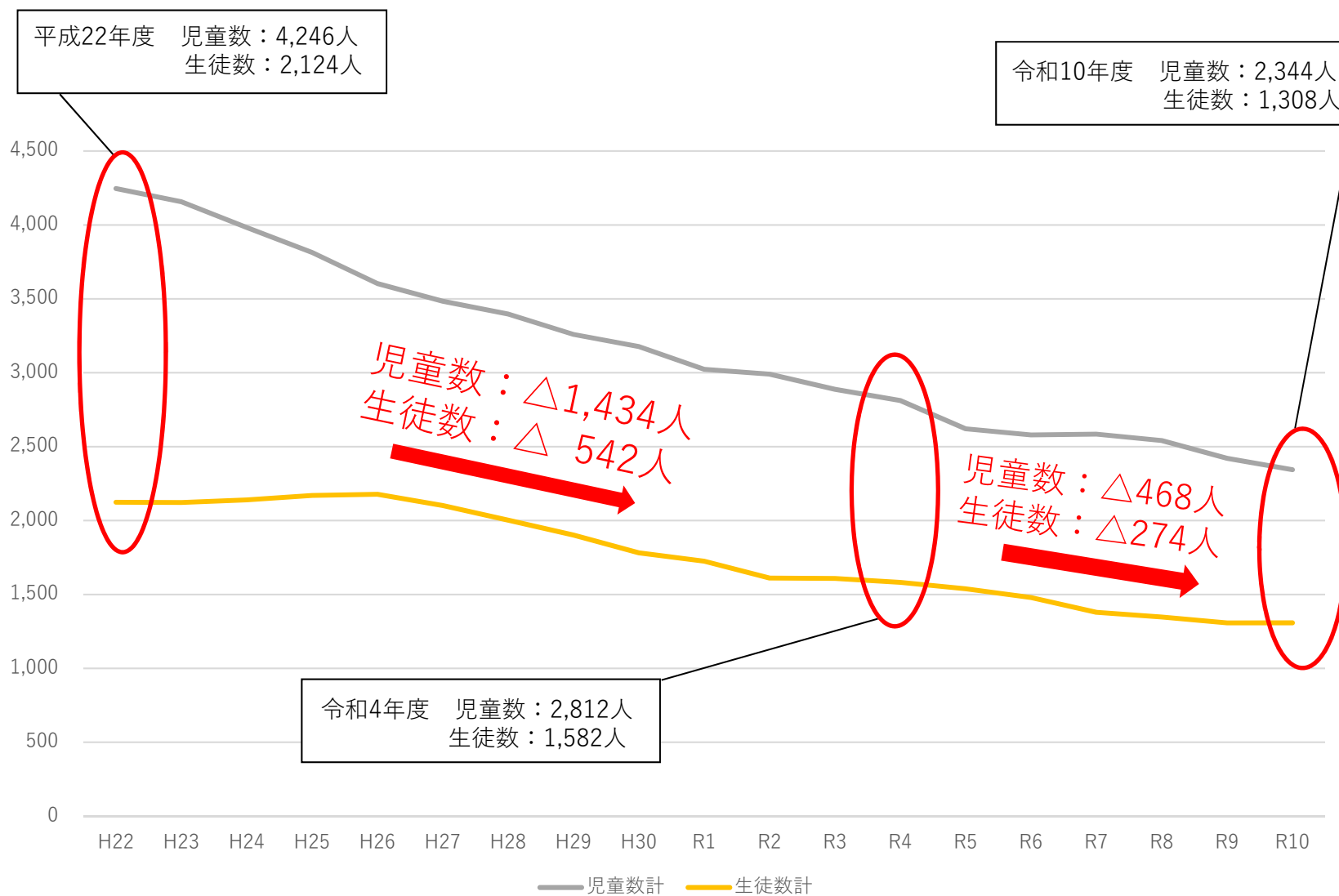
地区説明会

今後の予定：基本計画（案）作成、パブリックコメント、基本計画の作成

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

愛西市児童生徒数の推移



学校規模基準

規模の種類	小学校	中学校
過小規模校	～5学級(複式学級)	～5学級(単学級 学年ができる)
小規模校	6学級～11学級	6学級～8学級
適正規模校	12学級～18学級	9学級～18学級
大規模校	19学級～30学級	19学級～24学級
過大規模校	31学級～	25学級～

愛西市では国の基準を参考に、学校規模基準を以上のように決めました(法規では、小中とも12学級～18学級を標準)

(令和4年6月「愛西市立小中学校適正規模等基本方針(改訂版)」より)

学校別児童生徒数、学級数、教員数 令和4年度・10年度比較表【八開地区】

		令和4年度								教員数	令和10年度								教員数
		1	2	3	4	5	6	特	計		1	2	3	4	5	6	特	計	
八輪小	男	8	10	9	7	11	6	5	56	12	2	4	5	12	9	6		38	10 +a
	女	7	8	5	8	4	5	1	38		9	5	9	9	5	7		44	
	計	15	18	14	15	15	11	6	94		11	9	14	21	14	13		82	
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	8		1	1	1	1	1	1		6+a	
開治小	男	12	4	5	10	3	5	1	40	11	8	0	5	5	6	8		32	10 +a
	女	10	7	4	6	8	5	0	40		1	3	8	5	6	6		29	
	計	22	11	9	16	11	10	1	80		9	3	13	10	12	14		61	
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	7		1	1	1	1	1	1		6+a	
八開中	男	22	12	17				3	54	14	20	14	14					48	11 +a
	女	16	18	16				0	50		17	15	9					41	
	計	38	30	33				3	104		37	29	23					89	
	学級数	2	1	1				2	6		2	1	1					4+a	

- ・「特」は特別支援学級です。
- ・教員は、学級数に応じて配当され、校長や養護教諭も含まれています。

愛西市立小中学校施設老朽化の現状について（主要建物のみ）

令和4年6月1日現在

学校名	棟別	棟	建築年	経過年数	面積(m ²)
佐屋小学校	南校舎	東棟	昭和40年	57	1,113
佐屋西小学校	南校舎	東棟	昭和56年	41	2,739
市江小学校	南校舎	西棟	昭和50年	46	919
永和小学校	北校舎	東棟	昭和46年	51	1,223
立田南部小学校	南校舎	西棟	昭和35年	61	630
立田北部小学校	中校舎		昭和37年	59	809
八輪小学校	本校舎		昭和54年	43	2,636
開治小学校	本校舎		昭和55年	42	2,636
北河田小学校	北校舎		昭和46年	50	2,327
勝幡小学校	北校舎	東棟	昭和42年	54	847
草平小学校	北校舎	西棟	昭和45年	51	1,702
西川端小学校	南校舎	西棟	昭和49年	47	927
佐屋中学校	北校舎	西棟	昭和46年	51	1,706
永和中学校	北校舎	西棟	昭和44年	52	2,094
立田中学校	北校舎	中棟	昭和45年	52	1,355
八開中学校	東校舎		昭和50年	47	2,147
佐織中学校	校舎棟		平成18年	16	2,880
佐織西中学校	西校舎		昭和55年	42	2,190

中高一貫教育制度導入による影響

種別	高校名	併設中学校 学級数	入学定員	開校時期
愛知県立	津島高等学校	2学級	80人	令和7年4月
私立	清林館高等学校	2学級	70人	令和6年4月

愛西市を含めた近隣市町村から、毎年150人の小学生が上記中学校へ進学すると見込まれます。

※今年度私立中学の募集人員に対する志願倍率 4.5倍（一部報道）

●小規模小中学校にみられる傾向（利点）

メリット

【学習・生活面】

- 児童生徒間のコミュニケーションや人間関係が深まる。
- 児童生徒全員の状態が把握しやすい。
- 意見や感想を发表或し、一人一人がリーダーを務めたりできる機会が多くなる。
- 個性や特性に応じたきめ細やかな指導ができる。
- 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。

【学校運営面】

- 学級数に対して、特別教室、体育館、運動場の割り当てが多くなる。
- 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

（令和4年6月「愛西市立小中学校適正規模等基本方針（改訂版）」要約）

●小規模小中学校にみられる傾向（課題）

デメリット

【学習・生活面】

- 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れる場面が少なく、お互いを励まし、高め合う機会が得にくい。
- クラス替えがないため、仲間関係が変わらない。
- クラス同士が競い合える教育活動ができない。
- 意見の交換が少なく、協働的な学びの実現が困難となる。
- 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- 習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。

【学校運営面】

- 男女比の偏りが生じやすい。
- 授業の取組みや教材等の研究・意見交換が少なくなる
- 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。

（令和4年6月「愛西市立小中学校適正規模等基本方針（改訂版）」要約）

●小規模中学校にみられる傾向（課題）

デメリット

【学習・生活面】

- 学習や進路選択の模範となる生徒の数が少なくなる。
- 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- 多様な活躍の機会が少なく、多面的な評価で個性を伸ばすことが難しい。
- 集団の中での自己主張や他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくい。
- グループワーク等のアクティブ・ラーニングの効果的な実践が困難になる。
- 教科専門の先生から授業を受けられない場合がある。

【学校運営面】

- 教科ごとの専任科目の教職員の人数が足りない。
- 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置や、それらを生かした指導の充実が困難となる。
- 部活動の指導者確保が困難となる。

（令和4年6月「愛西市立小中学校適正規模等基本方針（改訂版）」要約）

中学校の規模適正化を進める主な理由

教科専門の正規教員が揃います

・中学校教員配置定数

	過小規模校			小規模校			適正規模校		
通常学級数	3	4	5	6	7	8	9	～	18
正規教員配置数（人）	10	11	12	13	14	16	17	～	31

※他にも、特別支援学級の数によって教員が配置されます。

※正規教員配置数には、校長・教頭・養護教諭が含まれます。

※小規模校、過小規模校は教科専門の教員が不足する可能性があります。

中学校は9教科あります。適正規模校では教科専門の教員が揃い、生徒の能力を引き出す機会が増えます。

中学校の規模適正化を進める主な理由

効果的な学びの展開が期待できます

一斉指導
(教師主導)

+

対話的学習
(生徒主体)

グループワークやICTを活用した意見の可視化により、多様な見方、考え方の異なる級友の意見に触れる

協働的な学びの展開

難しい課題に、生徒と生徒お互いが協力し支え合い、さらには教職員や地域の人とも対話し、共同で探求し合う授業を作る

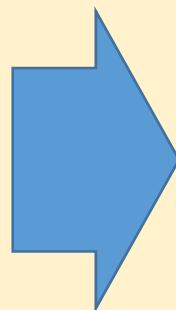
学びの共同体

※小中学校では、これまで以上に主体的に対話的な授業が行われています。

中学校の規模適正化を進める主な理由

社会的自立を促す機会が増えます

子どもたちが日々
様々な集団の中で
過ごし、話し合い、
活動する



問題解決能力を高め、
規範意識を醸成し、
社会性を育む

このような体験機会が増えます。

※様々な集団活動：班活動、学年交流活動、学校行事、生徒会活動、部活動など
多様な生徒との出会いや交流が計画・実施されます。

愛西市立小中学校 適正規模等 並びに老朽化対策 基本計画素案

【第Ⅰ期：令和5年度～令和12年度】

佐屋小学校の老朽化対策

新たにA中学校（仮称）を、
現在の佐屋中学校の場所に配置

新たにB中学校（仮称）を、
現在の佐織西中学校の場所に配置

新たにC小学校（仮称）を、
現在の立田中学校の場所に配置

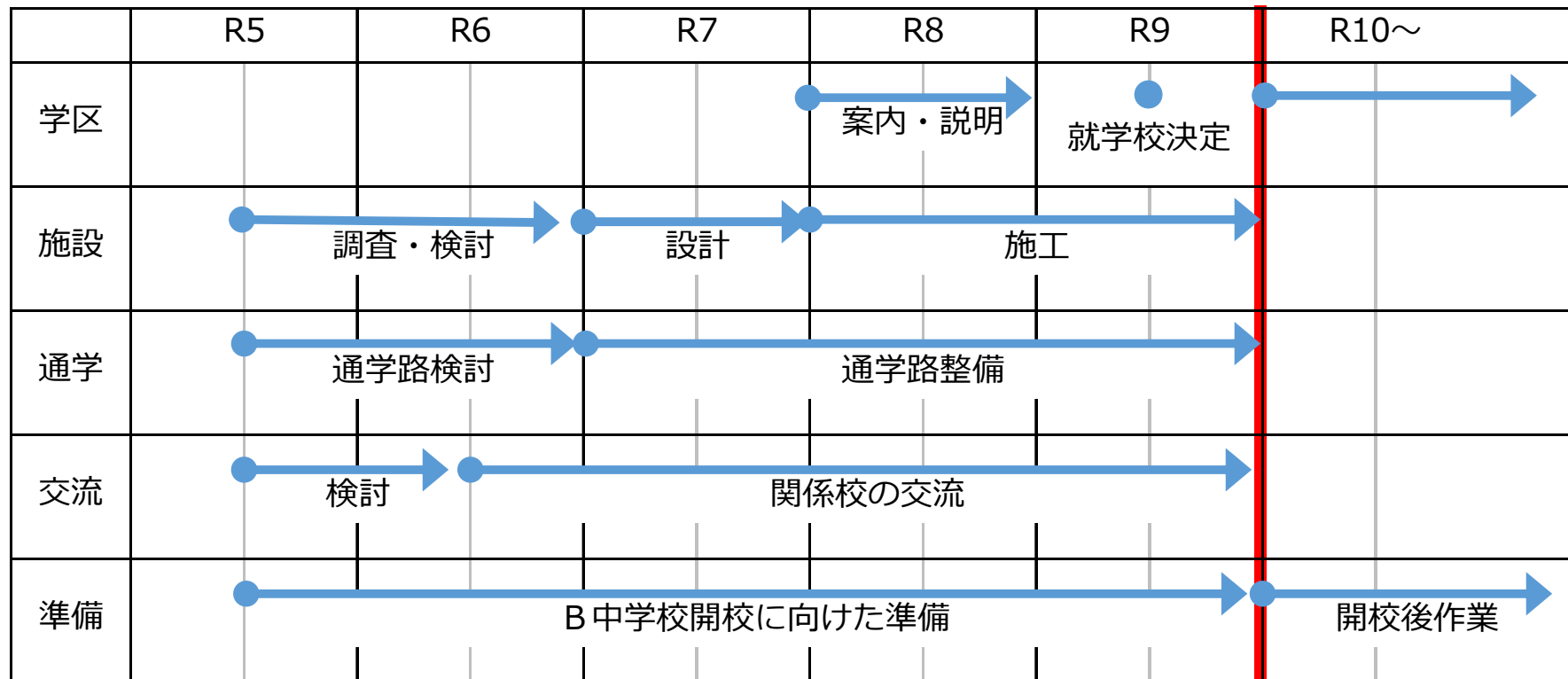
新たにB中学校（仮称）を、
現在の佐織西中学校の場所に配置

- 【学区】・現在の八開中学区と佐織西中学区の全部
※ただし、立田北部小学区の一部もB中学校への進学可
- 【施設】・既存佐織西中校舎の改修
- 【通学】・自転車
- 【交流】・当該小中学校で学校行事等の事前交流
・子ども達、保護者等の不安や課題の解決に向けた体制の構築
- 【準備】・上記含め、校名や教育内容、学校経営、PTAなど幅広く検討していく組織を設置

新たにB中学校（仮称）を、 現在の佐織西中学校の場所に配置

【スケジュール】

B中学校開校



※令和5年度から実施した場合（市長部局調整、法的手続き等未実施）